

大草谷津田いきものの里 自然観察会

春にであえるトンボやチョウチョ

萩 将勝（千葉市）

日 時：2024年5月19日（日）10:30～12:00、天気：曇り

参加者：24名（男4名、女6名、子ども14名）

担当指導員：木下・西野・萩、参加指導員：相吉・奥村・内島・岡田

今日は、朝から曇り空、そんな中、今回の参加者は2家族欠席の24名、今回は、捕虫網、虫かごを持たない家族が多く、たちまち用意してあった捕虫網はなくなりました。

まずは挨拶、谷津田の注意事項を話した後、3班に分かれて出発です。

森に入ってすぐ子どもたち“足の長いクモがいる”との声、ザトウムシ、観察瓶に入れてその特徴を観察する。イチモンジカメノコハムシが葉に止っている。坂を下り開けた場所の淵に沿って半周する。ここでは、ムシヒキアブがガガンボを、ハナグモが小さなハエを捕まえている、アカサシガメ、チャバネアオカメムシ、小さなカマキリ、土壌を改良してくれる大きなミミズ、ヒメウラナニジャノメが飛んでいる。ハルジオンの茎に小さな泡の塊を子どもが発見、中を覗くと赤と黒のツートンカラーのシロオビアワフキムシの幼虫。クワゴマダラヒトリの幼虫をじっと見ていた、2歳の時から虫が好と言う女の子“かわいいー”と一言。ナミテントウ、ヤマトシリアゲを見て谷津田の端に出る。ヤツデの葉の裏に小さなカタツムリ、ヨコバイ、切り株の下の乾いた場所にアリジゴク、オオスズメバチが飛んでいる。谷津田の湧き水のところから田んぼ畦道を歩く。人が近づくと飛び出すトンボ。田んぼには、オタマジャクシ、小さなカエル、中央の大きな道に出て、虫捕り開始。しばらく虫捕りをした後、捕った虫を持って集合。今日のテーマである、トンボとチョウの身体の特徴、捕まえた生き物を説明、昨日捕まえておいたトンボのヤゴ、イトトンボのヤゴ、ヒメゲンゴロウの仲間、ヌマエビ、カワニナ、オオタニシを観察する。残念ながら、トンボはシオヤトンボのみ、チョウは捕れませんでした。捕った生き物をすべて返し、スタート地点に戻り、感想を聞く。

“楽しかった！”と子どもたち、“谷津田の自然を楽しみました”とお母さん。皆さんそれぞれ楽しんで帰路につきました。



自由に虫捕り



すぐ友達に